

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析 河内長野市立加賀田中学校

学力調査の概要

国語

設問番号	学校の平均正答率
①一	66.2% +
①二	72.7% +
①三	35.1% -
①四	36.4% -
②一	28.6% -
②二	72.7% -
②三	63.6% -
②四	42.9% +
③一	83.1% +
③二	53.2% -
③三	66.2% -
③四	42.9% -
④一	64.9% +
④二	41.6% -
④三	70.1% -

概要

本校の全体の正答率が56%で、府57%、全国58.1%に対して下回っている。設問別では、平均を上回っている回答もあるが、下回っている回答の方が多い。また、記述式における無回答の割合が高いことが目立つ。

特に成果が見られた問題例

①二や③一の問いは、目的や意図に応じ、集めた材料を整理し、もしくは資料を用いて自分の考えをまとめる問いとなっているが、記述も含めて正答率が高い結果となった。

特に課題が見られた問題例

①四は、話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言を読み取り、自分の考えと結びつけてまとめる問いとなっているが、正答率が低く、無回答率も高く苦手な生徒が多い印象である。今後は、より協働的な学習を進めていく必要がある。

数学

設問番号	学校の平均正答率
①	24.7% -
②	57.1% +
③	70.1% +
④	59.7% -
⑤	66.2% -
⑥(1)	90.9% +
⑥(2)	27.3% -
⑥(3)	39.0% -
⑦(1)	79.2% +
⑦(2)	22.1% -
⑦(3)	49.4% +
⑧(1)	84.4% +
⑧(2)	13.0% -
⑧(3)	80.5% +
⑨(1)	24.7% -
⑨(2)	32.5% +

概要

本校の全体の正答率が51%で、府51%、全国52.5%と、昨年は府や全国と比べ下回っていたのが、平均値と近い結果となった。問題形式として、選択形式と短答式においては正答率が高いものの、記述式の誤答が多くなっている。

特に成果が見られた問題例

②の等式の関係の正答率については府・全国平均より高く、基礎の定着が図られている。⑦(1)最頻値を求める問い、(3)四部位範囲を比較する問いに関しても正答率が高く、よく理解できていると考えられる。

特に課題が見られた問題例

⑤簡単な確立を求める問いに関して、府・全国平均より正答率が低く、無回答率も高い。習熟度に応じた基礎学習を続けていく必要がある。また、⑥(2)や⑥(3)など、数学的な表現を用いて説明することが苦手な生徒が多く、思考・判断を表現する学習活動を設定していかなければならない。

学習状況調査の概要

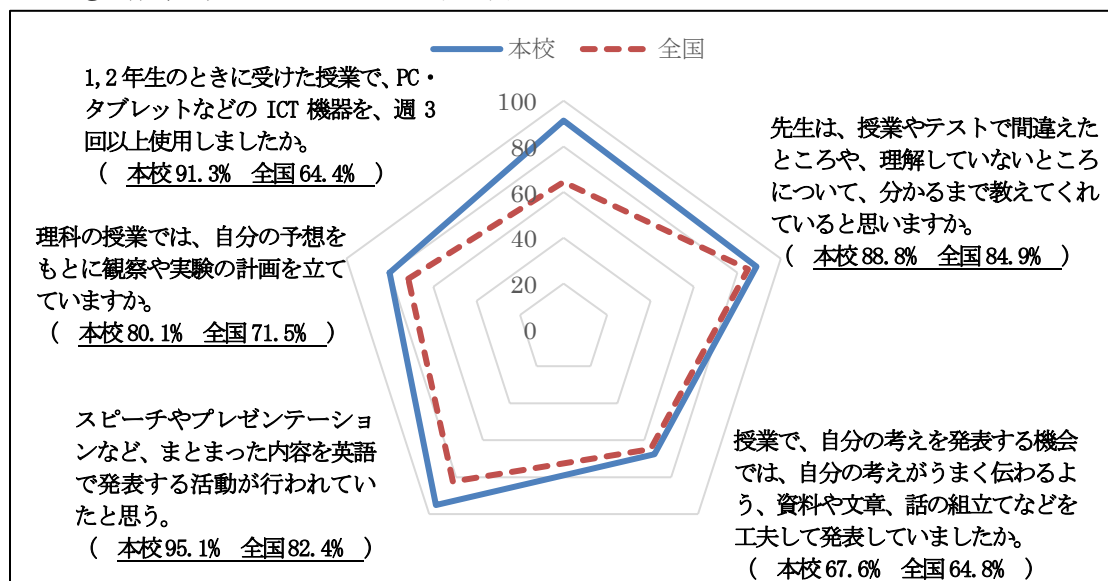
基本的な生活習慣を問う質問に対し、1日2時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をする(65.1%)、テレビゲームをする(63.8%)と、府や全国と比べても情報機器を使用している時間が長いことがわかる。また、携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っている(63.8%)と、府や全国と比べて低い値となっている。また、毎日同じくらいの時刻に起きている(91.3%)と、朝食を毎日食べている(86.3%)、同じくらいの時刻に寝ている(77.5%)、健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っている(71.3%)と、学校生活を充実させるために、健康な生活習慣の確立が必要となっている。

自分自身や学校での生活を問う質問では、先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う(87.5%)については府や全国と比べるとやや低く、困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる(68.8%)は、全国と比べても高い値となっている。また、友達関係に満足している(87.6%)とあるものの、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う(92.5%)、あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている(77.5%)と、府や全国と比べると肯定的な回答が少なくなっている。

学習に関する質問では、学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(1時間以上が45.1%)と、府や全国と比べると短い自習時間となっている。土日などの休日に関しても(1時間以上が50.1%)と短い。(学習に関連する各項目に関しては後述)

地域での暮らしに関する質問に対し、本校では地域と子どもとのかかわり合いが年々増えている中で、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う(78.8%)と、昨年度よりも肯定的な回答が増え、府や全国よりも高い値となっている。

グラフ① 成果が見られたアンケート項目例



特に成果が見られたアンケート項目例

本校ではタブレット端末を学習に積極的に取り入れてきているが、今回の調査結果でも、グラフ①が示す通り、非常に高い使用頻度となっている。まとめ活動や復習などにも使用しているが、全国と比べると「友達と協力しながら学習を進めることができる」、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」などの使用頻度は低い。ただし、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫するために活用している。

また、理科の授業では自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる、英語ではスピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を発表する、数学では授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるなどの肯定的回答が多く、本校で数年来続けてきている、「思考・判断・表現」に焦点をあてた学力向上計画の成果が出ている。

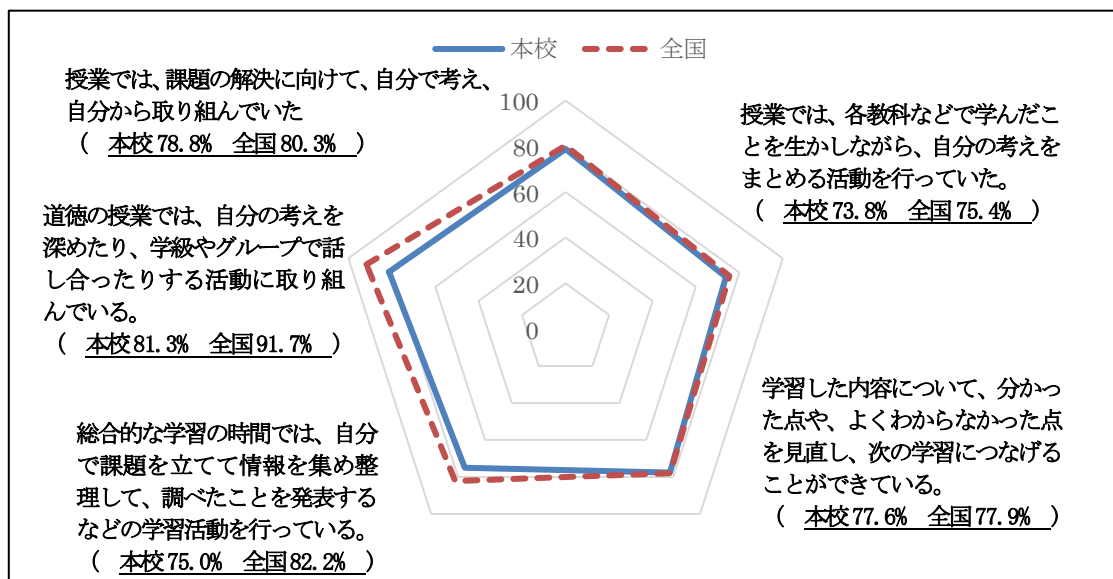
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると感じている生徒が多く、今後も生徒一人ひとりと向き合いながら、丁寧な学習指導を続けていくことが肝要である。

特に課題が見られたアンケート項目例

グラフ②にある通り、課題に対し自分で考え自ら取り組んでいた、分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習に生かす、各教科などで学んだことを生かして自分の考えをまとめたなどの、肯定的な回答が昨年度と同様に少ない。しかし、昨年度と比べると全国との差はほとんどない状況となってきている。

「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深め、新たな考え方に気づくことができる」と回答している生徒は多いものの、道徳や総合の時間において、その時間を十分に確保することができていないのが現状である。他者と意見を交えることで気づくことも多く、「協働的」な学びを教科、教科外関係なく学校全体で進めていく必要がある。

グラフ② 課題が見られたアンケート項目例



調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

全国学力・学習状況調査の結果が子どもたちの学力全てを表しているわけではありませんが、ひとつの傾向として見て取れることは事実だと思います。

特に学力については全国と比較して若干ではありますが下回っていることは事実で、このことが本校生徒たちにとってどう影響していくのかを学校として考えなければならないと思います。国語と数学だけの結果ではありますが、課題としてみられる、思考力・判断力・表現力を伸ばすためには、単純に問題を暗記して知識をつけるだけの学習から、例えば、ものごとを多面的にみたり、変化をとらえたり、比較・分類したり、理由づけたり、まとめたりするなどの思考スキルを伸ばす必要があります。

このことについては今までも英語でのプレゼンテーションや平和学習の発表・新聞づくりなど本校でも取り組んできていますが、教員研修などで、学校全体の学習指導に関する研究を進め、さらなる授業改革に努めてまいります。

また、学校生活において、今回の結果からも本校生徒の自己肯定感の低さが大きな課題だと考えます。これは日本人の気質や謙遜する国民性が原因であるにとらえる専門家もおられますが、一方では日本の若者全体の課題であるとも言われています。後者で考えるとひとつには、周りの大人からの期待の量や質が高すぎるためともいわれています。やはり、必要なタイミングでほめてもらえることで子どもたちは大きく成長します。子どもたちの自己肯定感の低さを我々加賀田中学校の教職員の課題にとらえて、マイナス面だけを指摘するのではなく、子ども一人ひとりの良さに教職員が気づき、ほめて伸ばしていけるよう努めてまいります。

同時に、心の悩みに寄り添える教師であることも、子どもにとって大切なことです。日々の様子が丁寧に心配りし、また、カウンセリング等で子どもたちの心の悩みに対して、ともに解決に向かって悩めるような、安心して相談にのってもらえる教職員でありたいと思います。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

知識の量を問う、暗記型の1問1答式の問題だけではなく、資料を読みとり、自分なりに考察し、考えをまとめ、発表する力をこれからも学習の中で、是非つけていってください。これらの力をつけるためには普段から社会で起こっている様々なものごとを考え、自分の考えや意見を持ち、それを人に説明したり、また、他人の考えや意見を参考にし、自分の考えや意見を修正したり、自ら課題を発見し深く考える力が大切です。そこには必ずしも正しい答えがある保証はなく、また、正しい答えがいくつかあるかもしれません。これから皆さんが歩んでいく世界は、これまでの経験からの予測が当てはまるとは限らない世の中なのです。みなさんが社会の一員として歩き始める頃には今以上に世の中は大きくそれも素早く変化し、今ある仕事の60%がなくなっているかもしれないとも言われています。そんなスピードで目まぐるしく世の中は動いているのだと思います。AIの出現により人々の生活の仕方も変わってきています。そんな変化に対応していくためには今までの知識や

学歴重視の社会から、経験やコミュニケーション重視の社会に大きく転換していくでしょう。例えばこの高校や大学を卒業したことよりも、そこで何を経験し、どのような人々と関係を創り、どのようなことを考えたのかということが重要になるのです。これらのことを意識して学んでほしいと思います。

また、どのような人と出会い、どのように人間関係を創っていくかも重要です。人は一人では生きていけません。多くの人と影響し合って、時には人を支えたり、支えてもらったりそれが出来る力も必要です。そしてそのためには相手が何を考えているかを想像することも大切です。人と人間関係を創っていくには自分のことだけではなく、相手の考えを理解する、相手のことを受け入れる力が必要になってくるのです。

いろいろと言いましたが、今まで経験していないことにチャレンジして経験値をつけ、それを活かせる力をつけてほしいと思います。そのためには、失敗を恐れることなく何事にもトライできる力を身につけていく必要があります。

保護者のみなさまに協力してほしいこと

知識理解だけではなく、思考力・判断力・表現力を育むためには、ものごとを自分ごととして捉え、それについて考え、根拠を持った判断をし、それを言葉や文字としてあらわすことを普段から行うことが必要です。そのために家庭でも大切になってくるのは、何かひとつの課題について、自分の考えを持ち、論理的に他者と会話し、自分の考えを表現することです。ご家庭の中で、新聞やテレビのニュース、ネットニュース（ただし、ネットニュースに関してはそのニュースの信憑性や不当な中傷についても考える必要がありますが）でも構いません。世の中で起こっていることを家族の中の話題にし、それを家族で話し合ってみるような取り組みが必要であると思います。中学生になると、社会の出来事に関心をもって近い将来にやってくる自立に向けて、自分の意見を持ち、また、他者の意見を聴き、受け入れたり、それについて論じたりする能力、もしくは社会の間違ったことを正当かつ論理的に批判する能力、つまりは本当の「生きる力」といわれるものが必要になるはずです。

そして、もう一つお願いしたいのは、学校と歩調を合わせた指導の連携です。家庭だけ、学校だけ、もしもこのような状況に陥ってしまうと、子どもは十分成長できません。例えば何かの指導をするときには、子どもの意見や思いを聴きつつ、学校が行った指導に理解を示していただき、両者の立場から子どもをどのように育てていくかを一緒に考えていくような指導を学校とともに考えていけたらと思います。そして、お互いの役割について理解し尊重し協力し合えるように心がけていけたらと思っています。時にはあえて子どもに対して、協力して厳しい言葉を投げかけないといけないこともあるかもしれません。そのあたりも含め、子どもの成長を考えて、足並みをそろえて、ほめたり厳しくしたり時には役割をあえて変えたり、歩調をそろえて指導できますようにご理解ご協力お願いいたします。